

勸進帳の怪

1963 年卒

崇島弘安

国際線空港の入国審査です。

凶悪犯罪で国際手配の人相にそっくりの男が現われました。礼節をわきまえた奥さんと、可愛い娘さんが一緒です。

数々の質問をしますが、応答に何ら疑点がありません。夫婦ともやさしい物腰です。色々質問で長引き、お嬢ちゃんがむずかり始めました。長旅の疲れもあったのでしょう。

父親は娘を叱責しました。係官は子供を可哀相に思い、疑えば切りがないので、入国を許可することとしました。

冷静に考えて、この係官の検査はどうでしょう。私は不適と考えます。

お嬢ちゃんにかまけず、他の検査方法も残っていたと思います。それを、やすやすと通してします。職務怠慢に思えます。

ふと、富樫左衛門を思い出します。彼は義経主従の深い絆に感情移入してしまい、関を通してしまいます。さっきの入国審査官と似ています。

これは頼朝に対する背信です。重大な職務違反です。

論理的に考えると、こうなります。しかし、私達は論理的には考えません。

私達の時代は幼児から、牛若丸、弁慶の話の本で絵本で見聞きして来ました。五条の橋での出会い、平家との戦い、共に戦った武勲が下敷きにあります。

豪快な弁慶、知略な弁慶。

武士の情け、花も実もある富樫左衛門。今更、まっさらな頭で思考しません。

富樫の名乗り、弁慶の勸進帳読み上げ、山伏問答。義経を打擲する弁慶。人里離れたところでの弁慶の謝罪。それに対する義経のねぎらい。涙を禁じ得ません。延年の舞、主を先に逃がし、飛び六法の引込み。

私達は長唄の旋律に酔い、一つ一つの演戯に見入ります。時に、往時の名優の面影が交差します。

七代目幸四郎の貴重な映像があります。七代目晩年の弁慶です。戦争末期に松竹がカメラに収めたものです。七代目はただただ素晴らしいの一言です。

独特な台詞回しは他の追隨を許しません。千八百回演じたと云う、芸の蓄積です。へたに真似をすると大火傷しかねません。

七代目は息子達三人には「楷書」の弁慶を教えました。息子たちは教えを請うた俳優にも伝授しました。又、七代目の芸は息子から、孫、ひ孫へと伝承されています。現在の勸進帳は七代目の型です。ただ一人、十七代目羽左衛門は九代目団十郎の弁慶です。私はこう記憶します。

勸進帳はすぐれたお芝居です。

この秀れた劇を世界の人達にもと、海外公演に掛けました。ところが欧米人には通じません。主君を打つなど信じられません。

勸進帳の海外公演は不人気です。しばらくは海外公演がありませんでした。
最近久しぶりの海外公演。団十郎がパリオペラ座で公演しました。
団十郎は過去の例を充分承知しています。それなりの工夫をしたと云います。フランス語による口上もつけました。

しかし、フランス人に感動を与えることはなかった様です。
専門家は「極めて完成された劇だ」とコメントしました。中味の評価はなしです。
フランス人の若い女性は、主君を棍棒で打つなど、信じられないと云っていました。又、大杯をあおる弁慶が分からないとも云っていました。

やはり無理だったのだと思います。
海外で成功する演目は隅田川、俊寛などです。母子の情愛は万国共通です。流罪はナポレオン始め、いくつかあるので共通の心情があるようです。

欧米人はストーリーがはっきりしないとだめな様です。
翻えて、日本の若者です。おそらくは源平盛衰記も知らず、平家物語も読んでいないように思います。筆者の偏った憶測です。

そして、若者は合理的思考をします。
いわんや、主従の絆、花も実もある武士など理解の外です。
高校生の勸進帳観劇会で、引率の教師だか、教育委員会の人か知りませんが、歌舞伎を知らない人が勿体ぶって歌舞伎の講釈をします。歌舞伎をありがたいお経のように説明します。笑止です。

生徒はかしこまって聞いています。勸進帳、舞台は美しく、役者の熱演、三味線音楽は同じ日本人、きっと、心に通じると思います。でも、真に理解出来るのでしょうか。

日本の若者と外国人は同じようなフィーリングを持つところがあります。

もし、
美しい音楽、美しい舞台、豪放な弁慶。

これだけでも堪能出来たなら、それはそれで、良しと致しましょう。